

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4373101015		
法人名	社会福祉法人 洋香会		
事業所名	にしき園グループホーム ～うめ棟～		
所在地	熊本県球磨郡錦町西70番地		
自己評価作成日	平成 25 年 8 月 7 日	評価結果市町村受理日	平成25年10月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アクシス		
所在地	熊本県熊本市八幡9-6-51		
訪問調査日	平成25年9月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれた広大な敷地に、2ユニットのグループホームとデイサービスが併設された施設で、園内にはグランドゴルフ場や菜園、遊具を設置し、近隣には梨園や桃園、敷地内には竹林等もあり、季節感を味わえる立地となっている。デイサービスとの合同グランドゴルフ大会をはじめ、小学生の登校時の「おはよう」声掛け運動、認知症サポーター養成講座、地域の皆様のカラオケ教室、各ボランティアの受け入れ、各町村からの見学会等地域密着型施設として地域との交流を大切にしている。職員の年齢層が幅広く、経験を活かし様々な情報を交換しながら、利用者様との馴染み関係も取れている。家庭的な雰囲気作りの為に出来る事を日々模索し、毎日の生活の中で利用者様、家族様に安心して頂けるような心のこもった支援を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は緑に囲まれ、大変恵まれた環境の中にあります。近くには梨園や桃園も広がり、居ながらにして季節感を堪能することが出来るそうです。さらに事業所の敷地も大変広く、グラウンドゴルフ場、子供たちの遊具、また地域交流館も併設されています。事業所は、地域に開かれ、地域との触れ合いを大切にしており、地域交流館の開放、ボランティアの受け入れ、また各町村の見学者の受け入れ等も積極的に行っています。そのためか、果物等の収穫の時期には、近隣からたくさんの差し入れがあるそうです。さらに事業所では、職員の育成にも力を入れて取り組んでいます。サービス向上委員会を設置し、専門分野に関する研修会への参加や専門誌の定期購読、また各種資格取得も奨励しております。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時以来、当施設の理念を職員、利用者、家族様の見やすい場所に掲示している。又、方針や目標は、毎月の勉強会等で話し合いサービスに活かすようにしている。地域のカラオケ教室、子育て支援グループ、子供達の遊び場として施設を開放している。毎週月曜日の朝は、地域の子供達の登校時に「おはよう」の声掛けを実施している。	事業所は、「私たちは地域とともに歩み、「自然を愛し・地域を愛し・人を愛す」という基本理念のもとに、具体的な十項目から成る基本方針を掲げている。その上で、毎年度の目標を決め、福祉サービスの提供に取り組んでいる。理念の共有・実践については、毎月の勉強会や職員の教育制度であるチューター制度等で底上げを行っている。また必要な場合は、個人指導も行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年間を通しての行事、祭り、買い物等を行っている。園庭に設置した遊具で遊ぶ子供達や地域から訪問されるボランティア、子育て支援グループ、施設見学会の方々等との交流をしている。敷地内のグランドゴルフ場では、春と秋にデイサービスセンターの利用者様と合同で大会をおこなっている。	事業所は、広大な敷地に建設されており、地域交流館やグランドゴルフ場も併設されている。地域交流館では、年間を通じて地域の方々の集まりに利用されています。訪問した日も、子育て支援グループの集まりが計画されていると聞きました。また、グランドゴルフ場でも、春・秋には大会が行われるそうで、車イスの利用者も出場されるそうです。競技の中で、利用者の今までの生活歴や思いを再発見することもあるそうです。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者と一部の職員は、町の認知症サポーター養成講座を受講し、地域の認知症徘徊模擬訓練等に参加し協力している。又、役場の要請にて地域の公民館で認知症スキルアップ講座を開催する等協力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に行い、町の各分野、利用者様、ご家族代表の出席の元、2ヶ月間の利用者の生活状況や施設の取り組みを報告し、話し合いその後のサービスに活かしている。	運営推進会議は奇数月に行い、日時は決まっていないとの事です。メンバーは町の担当者、地域包括支援センター職員、地域の区長、民生委員、消防団長、利用者、利用者の家族などである。内容としては、利用者の生活状況や事業所の取り組みについて報告し、話し合っている。	今後は、会議の中でメンバーの知識や専門性を活かす取り組みや、タイムリーな話題なども取り上げ、一層の活性化をお願いしたいと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、役場の福祉課や包括支援センターより毎回出席して頂き、意見交換をしている。管理者は、町の認知症運サポーター運営委員として会議等に出席し、日頃より連絡を取り合っている。	運営推進会議の他にも、管理者は町に認知症サポーター運営委員になっており、日頃から町の担当者とは連絡を取り合い、協力関係づくりを進めている。また、会議等でも面談している。	

にしき園グループホーム ～うめ棟～

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の全体会議等において、身体拘束やリスクマネジメントに関する研修を行い、勉強会も実施している。施設入り口の門扉や施設内の出入り口は出来るだけ解放している玄関に身体拘束をしない方針を掲示し職員全員で共有している。	毎月、全体会議が行われており、その中で身体拘束やリスクマネジメントに関する研修を行っている。夜勤と遅出以外の全職員が参加しており、身体的な行為や事例を取り上げ、弊害についても話し合っている。また、玄関には身体拘束をしない旨の指針を掲げている。ただ、施設の入口や玄関の施錠については、今現在、新しい入所者の関係上、完全な解放には至っていない。	少し歩けば、交通量の多い幹線道路があり、苦肉の策のようですが、出来るだけ早く解放できる日が来るよう、支援してほしいと思います。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は、研修や勉強会に参加し高齢者虐待の具体的な事例を取り上げながら、その徹底的な防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、現在実践しているケースがあり支援すると共に、管理者は勉強会等で随時資料、情報を提供し、権利擁護も含めて共に勉強している。又、弁護士等の専門職とも連携し取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約に関しては、管理者、計画作成担当者が、家族様に解りやすいように時間をかけて、要望等も伺いながら説明している。必要事項においては、同意書を頂き、書類の改定時には、その都度文書でお知らせしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員は、家族様の面会時に出来るだけお話しする時間を作り、ご要望等を伺う機会を設け、その後検討し支援に反映させるようにしている。契約時に、苦情受付窓口の設置についての説明も行っている。運営推進会議に、家族様や利用者様も出席され、意見を頂いている。	2ヶ月に1回発行している事業所だよりや、毎月行っている近況報告、また面会時の会話等を通して、家族との関係づくりや意見・要望の収集に努めている。また、玄関には意見箱を設置したり、第三者苦情処理機関のポスター掲示をしたりしている。事業所では、いろいろな意見や要望は、スキルアップ・改善のいい機会ととらえている。	今後も、利用者や家族等の意見や要望に真摯に耳を傾けて欲しいと思います。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、日頃の業務や勉強会に於いて職員各自の意見や提案が出やすい雰囲気を作っており出た意見や提案は、検討して出来るだけ運営に反映させるようにしている。又、上半期、下半期の人事考課等で、時間をかけて話し合っている。	管理者は、サービスの質の向上を目指すためには、管理者と職員、職員と職員のコミュニケーションが欠かせないと考えており、日常の業務に関すること、また勉強会等においても積極的に意見や提案を引き出すようにしている。また、その雰囲気づくりにも力を入れている。	

にしき園グループホーム ～うめ棟～

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年ごとの人事考課に於いて、各職員の自己実現項目に関して公平に評価、助言し、次期目標に繋がりが持てるようにしている。常にコミュニケーションの取れる職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	サービス向上委員会を設置して事業所内での研修を勧めている。専門分野に関する研修への参加や専門誌の定期購読等で職員のレベルアップを図っている。又、各種の資格取得も奨励している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会にて連携を持ち、定期的に研修や勉強会を開催し、交流を行いサービスの向上に努めている。又、敷地内の交流センターを会議や研修の場として提供する事もある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接調査を元に在宅時の担当ケアマネージャと連携を取りながら、本人様の不安が少しでも解消できるようにしている。担当職員は、毎月家族様宛にメッセージカードを隔月にGH便りを送付している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時、本人様や家族様の要望を出来るだけ受け止めて安心して頂けるサービスを提供している。又、日々の生活の中で面会時やサービス担当者会議に於いても耳を傾けて、利用者様、家族様との信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の聞き取りを充分に行い、本人様、家族様が必要とされているサービスを最優先としてのプラン作成に努めている。又、その後変化が見られた時は、希望に添うように柔軟な対応をし、小さな事についての相談も受け止めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に生活の場である事を意識して、食材の買い出しや、同じ食事を一緒に作り食べる事で話題も多い。行事食等については、昔からの知恵を出して頂き、共有している。職員は、毎日の状況をその都度詳しく説明している。		

にしき園グループホーム ～うめ棟～

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各行事への参加の呼びかけや面会の促し等で利用者様は、安心して満足されている。面会時は、家族様と利用者様の一緒の時間を作り、お互いにゆっくり話されるように配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設のデイサービス利用者様や地域のカラオケ教室の方との馴染み関係を絶やすことなく、誰とでも気軽に話されている。買い物や行事のバスハイク時等も地域の皆様に声を掛けて頂いている。又、本人様の出身地区の行事参加もされている。	事業所にはデイサービスが併設されており、馴染みの友人・知人も通って来られているそうです。そこでは、3B体操や音楽療法を一緒に行いながら、親交を深めているそうです。また、地域のカラオケ教室の方も時々尋ねて来られるそうです。敬老会等、出身地の行事にも参加されているそうです。	
21		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	園庭の散歩中、利用者様の車椅子を押してあげられたり、手をつないで歩かれたり、それぞれの性格を把握した上で関係を築き支え合えあるように配慮している。お独りの時間も大切にされるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された時は、お見舞いに行ったり、洗濯物のお世話をしている。他の施設に入所されても、機械があれば面会をしたり、家族様と話をしたりして介護に関する相談は、気軽に受け付けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランに添って、本人様の希望や意向の実現を目標に取り組んでいる。定期的なモニタリングを行い、日常生活に於いて出来るだけ声掛けし、本人様の思いを引き出す努力をしている。困難な場合は、ケアカンファレンスで検討し、サービス担当者会議で家族様の意見も頂きながら話し合っている。包括支援センターにも相談している。	事業所では、“私は、こうしてもらったら嬉しい”や、24時間シート(生活援助シート)の書類を活用し、思いや意向の把握に努めています。もちろん書式の前に注意することがあるそうです。それは、声のトーン、苦情、笑顔だそうです。そうすることで信頼関係が生まれ、思いを話してくれるそうです。それでも困難な場合には、家族に聞いたり、地域包括支援センターに相談したりすることもあるそうです。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の介護支援専門員からの情報や入所時のアセスメント資料、家族様の面会時の色々な話、本人様との対話の中から情報を収集し、本人本位の生活環境作りに努めている。		

にしき園グループホーム ～うめ棟～

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック、食事量のチェック、排泄チェック、体重測定を行い、活動内容やその時の表情、状況を自然に関わりながら細かく観察し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員でお一人ずつを観察する力をつけ、勉強会でケアプランの見直しや検討を行っている。特に担当の意見は重視してケアプランに反映している。サービス担当者会議に於いて、家族様の意見を取り入れている。	利用者がより良く暮らすための介護計画は、日頃関わりのある全職員の意見を参考にして作成しており、特に担当者の意見は重要視しているそうです。また、サービス担当者会議に於いては、本人・家族とよく話し合い、医師の服薬等の指導を取り入れ、現状に即したものになるよう取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別のケース記録に記入しながら、毎回のミーティングや会議で変化や気づき等を話し合い介護計画に反映している。その実践状況を介護支援経過に記録し、次の見直し等の参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスに於いて、電気治療や3B体操、音楽の日等を実施し、利用者間の交流を行っている。突発的な受診や本人様希望の外出等も柔軟に柔軟に実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での季節ごとの行事参加や、買い物、地域の子供達との交流を通して楽しまれている。又子供達の登校時の声掛け運動にも出かけられる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、家族様の希望を重視しており、入居前のかかりつけ医の継続や近隣の医療機関との連携等安心されるような医療の提供をしている。場合により、家族様と相談の上、紹介を受けた専門的医療機関の受診も実施している。	基本的には、かかりつけ医の定期受診は家族対応となっているが、家族の都合のつかない場合も多く、職員が付き添い、受診する場面が多い様である。また、専門医を定期受診される方が1名、歯科医を不定期に受診される利用者が3名おられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師をはじめ、併設のデイサービスの看護師やかかりつけ医の看護師等に相談し連携を取りながら利用者様の心身の状況把握に努め、必要な時にいつでも受診出来るような体制作りをしている。		

にしき園グループホーム ～うめ棟～

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院に関しては、安心して治療され、又早期退院出来るように、掛りつけ医と連携し、家族様と相談しながら、対応している。病院関係者、地域医療連携室、ソーシャルワーカーとも協力関係が出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	開設後3年が経過し、高齢化が進み終末期に向けて家族様との話し合いをその都度行っている。又契約時にも、医療連携と重度化に関する指針を説明しご理解は得ている。看護師、掛りつけ医、家族様と職員が連携を取り、出来るだけ本人様、家族様の意向にそのような支援を目指し進めていきたい。	契約時に説明し、理解を得るようにしている。事業所としては、出来るだけ本人や家族の意向に沿えるような支援を目指している。また、実際に最近看取り支援を行ったそうである。この利用者の場合、家族に医療関係者がおられ、病院ではなく事業所でのターミナルを希望されたとのことである。	終末期の支援には、主治医の協力、家族の理解、職員のスキルが欠かせません。今回の経験は、事業所の支援力アップに大きく貢献するものと思います。今後、同じ取り組みを行っている事業所との交流を図り、情報の収集や職員のスキルアップを図ってほしいと思います。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、目に付く所に置いている。緊急連絡網を掲示し全職員で共有している。普通救命講習や上級救命講習を積極的に受講し急変時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3ヶ月に一度は、地域の消防署に協力を依頼し、日中、夜間帯それぞれを想定した消防避難訓練を行っている。又、毎晩夜勤者と遅出勤者による避難訓練を実施し、身体で覚える訓練をしている。災害時の備蓄品として、水やレトルト食品等も用意している。	事業所は、地域の消防署に協力を依頼し、3ヶ月に1回、消防避難訓練を実施している。昼間、夜間帯それぞれを想定して行っている。また、夜勤者と遅出勤者は毎晩訓練を行い、避難の手順を確認するようにしている。また、災害時の備えとして、水やレトルト食品を3日分備蓄している。	運営推進会議を利用して、地域の支援体制づくりも進めて欲しいと思います。まずは、メンバーの消防避難訓練への参加から取り組んで欲しいと思います。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各種マニュアルに添って、特に入浴時や排泄介助時の処遇は、全職員で統一している。無理をしない範囲で、必要以上の介護をしないように心掛けている。日々の会話に於いては、生活歴等を充分把握しながら、人生の先輩としての尊敬の気持ちを込めた声掛けをするようにしている。	接遇に関するマニュアルを備え付け、勉強会を繰り返し行うことで、職員のスキルアップとレベルの統一化を目指している。特に、入浴時や排泄介助時の対応については、職員全員が統一した支援を行っている。職員は、言葉使いや目線の位置、早めの気づき、また失禁時に於ける職員の表情、言葉使い等には、特に注意し、傷つけることのないような支援を心掛けなければならないと話していた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者様の声に耳を傾け、強要することなく自己決定をして頂く。困難な場合は、選択し易いような声掛けをし、自己決定を促すように心掛けている。		

にしき園グループホーム ～うめ棟～

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの趣味、活動は進んでして頂いている。利用者様のペースを大事にして、一日を穏やかに過ごされるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様や家族様の希望を受け止めて、散髪や髪染め、又買い物等の支援を行っている。男性の利用者様の髭剃り等もその都度して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	同法人特養の管理栄養士が作成した献立を工夫して、畑の野菜をふんだんに使い利用者様に下拵え、盛り付け、下膳をお願いし楽しませている。又、漬物等昔ながらの作り方を利用者様に伝授して頂く事もある。各棟それぞれにメニューを考えて季節感取り入れている。	栄養のバランスを考慮し、同法人の管理栄養士が作成した献立をベースに食事の支援を行っている。楽しい食事になるよう、利用者の状況を考え、調理方法(柔らかくするための炊き方)にも工夫している。また、敷地内の畑ではいろいろな種類の野菜が収穫できるとの事で、利用者も楽しみにしておられるようである。漬物や梅干しも利用者の指導のもと、漬けている。	高齢化とともに、調理への参加が少なくなって来ているようですが、役割があり、人の為になるという喜びは、よりよく生きる為の活力になると思います。その日の体調にもよりますが、出来るだけ参加できる場面づくりをお願いします。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の管理栄養士が作成した献立を元にしながら、栄養が偏らないように各利用者様が好まれるような工夫をして、職員も一緒に摂っている。ケース記録に各利用者様の食事摂取量や水分摂取量を記録し、把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、状態に応じては液体歯磨き等も使用し清潔保持を行っている。日頃より残り茶でのうがいもやっている。又必要な時は協力医の歯科医院の往診も依頼している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者様の排泄状況を記録し、パターンを掴み認知度やADLに応じて声掛け等の介助を行っている。又、介助の方に関しては、下拭きタオルを温めて清潔を保っている。	利用者の排泄状況をチェックシートに記録している。ひとりひとりの排泄パターンやキョロキョロする、立ち上がろうとする、ムズムズするなどの特徴をつかみ、トイレでの排泄を支援している。また夜間に於いては、おむつ利用の方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食時、汁物を提供している。毎朝野菜ジュースを提供したり、野菜を多く取り入れた献立を心掛けている。毎日定期的な水分補給の時間を決めそれ以外でも出来るだけ摂って頂き、排泄チェックをしながら便秘の解消に努めている。		

にしき園グループホーム ～うめ棟～

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調に配慮しながら、隔日に入浴して頂いているが、本人様が希望される時は、その都度入浴して頂いている。特に時間の制限はせず、お風呂好きな方には、ゆっくりと入浴して頂いている。時には、足浴をされることもある。	その日の体調にも依るが、隔日の入浴で週3回を予定している。時間的には、午前が10:30～12:00、午後が1:30～3:00を予定している。ゆず湯やしょうぶ湯等の日本の文化的習慣は取り入れて支援しているが、入浴剤の使用は行っていない。入浴をあまり好まない利用者へは、職員のチームワークで支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい時は、自由に休んで頂いている。訴えが出来ない方に関しては、身体状況や年齢を考慮してその都度休んで頂いている。安眠されるよう季節により、電気毛布やあんか等を利用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日、確認しながら準備し、声掛けをしながら、確実に服薬して頂いている。薬の情報は、個別のファイルや薬専用のファイルにまとめ、変更時等は特に全職員で確認、ミーティングでも共有するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者様の能力や状況に応じて、洗濯物をたたんで頂いたり、野菜の下拵えをお願いしたりしている。それぞれの趣味を取り入れ、習字や活け花等もされている。デイサービスでの3B体操や音楽の日も楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人様の希望次第で、園庭や近隣への散歩、買い物に出かけて頂いている。家族様の協力でお墓参りや帰省にて外泊されることもある。出身地区の敬老会等に参加される方もいらっしゃる。又、年間を通しての活動計画として、季節ごとの花見や神社参拝のバスハイクに参加される。	季節のいい春や秋は、事業所の園庭を散歩している。車いすの利用者を別の利用者が押して、散歩されることもある。事業所の近くには、桃園やなし園があるようで、花の時期には、散策に出かけている。また年間を通して、花見(さくら・あじさい・しょうぶなど)や、神社参拝等の支援も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日々の生活に於いては、職員で管理している。買い物や外食の時は、職員支援の元、自分で払って頂いている。時々移動販売の際、買い物をされることもある。		

にしき園グループホーム ～うめ棟～

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀はがきや暑中見舞い等を書いて頂いている。家族様からの郵便物は、必ずお渡しして読んで頂く。電話のやりとりは自由にされている。家族様からの電話をととても楽しみにされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所やトイレは入りやすいように、明るくしている。壁面は季節の花や行事の写真、絵等で空間に季節感を表すようにしている。天気の良い時は窓を開放して外気を取り込み、食事時は、音楽を流し穏やかな雰囲気を出している。浴室はマット等使用し、滑らないように工夫している。バルコニーや休憩所でのお茶やおやつを楽しまれている。	室内は天井が高く、明かり取り窓もあり、明るくのびやかな空間となっている。壁面には、いろいろな行事の写真や貼り絵、また利用者の作品等を掲示している。また、リビングからはお茶を飲みながら、恵まれた自然やたわわに実った野菜畑を見ることが出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	バルコニーのソファや休憩所等で過ごされたり談話室を利用される事もある。ホールのソファは数個あり、気の合われる方が一緒に座られて過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様がそれぞれに使い慣れたタンスやソファ、思い出の写真、置物等を持ち込まれご自分の家とさせて頂ける工夫をしている。又、お位牌を持って来られる方もあり、毎日仏飯を挙げてお参りされている。	居室はベッド、クローゼット、エアコンが標準装備されており、寝具類は使い慣れたものを持参して頂くようになっている。壁面には、思い出の写真や菖蒲見学等の写真が飾られていた。また、位牌をお持ちの方もあられ、毎日仏飾をお供えしてお参りされる方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の位置は、本人様能力、状態を考慮している居室入口には名前を掲示し、確認出来るようにしている。台所やトイレは入りやすいように工夫している。園庭は、車椅子でも移動出来るよう散歩道を作っている。		